

第21回川崎市文化芸術振興会議録（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成22年1月28日（木）
午前10時から12時まで
- 3 場所 川崎区役所7階 第3会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員（会長）、垣内委員（副会長）、岩森委員、城谷委員、野畑委員、林委員、星川委員、前田委員、廣瀬委員
欠席委員：渡辺委員
 - (2) 事務局 市民・こども局市民文化室
野本室長、村石主幹、服部課長補佐、植村職員
- 5 議題
 - (1) 平成21年度文化アセスメントの実施状況について
 - (2) 平成22年度文化アセスメント対象事業の選定について
 - (3) 今後のスケジュールについて
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

事務局 半数以上の委員が出席しているので、川崎市文化芸術振興会議規則（以下「振興会議規則」という。）第4条第2項の規定により、会議が成立していることを報告する。続いて、配布資料の確認を行う。議題資料1、議題資料2-1、2-2、2-3及び参考資料を事前に送付している。追加資料として、議題資料3参考資料2及び3を配布した。振興会議規則第4条第1項の規定により、これ以降、澤井会長に議長として議事進行をお願いしたい。

議長 それでは第21回振興会議を開会する。まず、平成21年度文化アセスメントの実施状況について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 議題資料1は、対象事業の予定表を最新の状況に更新したものである。A音楽文化振興事業、B市民文化活動支援事業ともに、残る取組は1つずつであるが、音楽文化振興事業の「マタニティ&親子コンサート」として予定されていた取組は、新型インフルエンザの影響もあり、川崎市リハビリセンターで、近隣の福祉施設の利用者に鑑賞してもらうこととなった。市民文化振興事業の「かわさき市美術展」は、先日応募を終了し、2月5日から入賞・入選作品展を見ていただく。

議長 今年度の実施状況の説明があったが、これまでの実地調査から意見や注文があるか。
城谷委員 各委員が評価を出すのはいつまでか。

議長 スケジュールは、議題3で事務局から説明がある。続いて、議題2に移り、平成22年度文化アセスメントについて、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

議長 この進捗の欄がありますが、これは平成20年度から、全部終わっているのですね。進捗とは、書いてありますが、完結した状況ということですね。これは、今後、2の方で、22年度の事業を選ぶ時の参考資料をいう意味ですか。

事務局 そうですね、全事業の20年度の実績がご欄に頂けますので、参考資料としてお出しいたしました。

議長 これで、議論するわけも行かないので、一括していきたいので、引き続き、2の方の説明をお願いします。

< 事務局 説明 >

議長 要するに、議題資料2の2の方は、アセスの対象となる候補の事業について、太字で書いてあるのは1千万以上であるし、星印がついているのは、重点事業なので、主要事業で、比較的予算規模も大きいし、市の方の進行計画上の重点的位置付けがされているという事をみながら、内容については、議題資料2の1を見て頂くと、詳細のデータは載っているという、こんな感じだと思います。この辺を見ながら、ご意見を頂きたいと思います。

この関連で、実は、だいぶ前なのですが、昨年10月28日に部会を一度開きました。私の方から、簡単にご報告したいと思います。

参考資料をご覧頂けますか。平成22年度文化アセスメントについて（部会）と書いてあります。これは、議事録ではなくて、実施資料で、平成22年度の考えかたと書いてあります。文化アセスメントのマニュアルにおける抽出選定条件として、テーマ設定における抽出、進行計画の分野毎による抽出という両方とも、人材とか文化創造とか、文化芸術とか、地域活性化とか、いろいろなテーマで選ぶのもよし、それから、進行計画の分野毎に選ぶやり方もあるという議論なのですが、選定条件は前々から、基本的な文化アセスメントの 我々がこれまで議論してきた選定条件で、別に、新しいものではないのですね。こういう視点で選んでみましょうと。それから、抽出選定の考え方というのも、前回までに、市の事務局の方から話があった内容だと思います。次年度は、実施2年目になりますので、最初の年は、少しテスト的な意味もあって、非常に文化の分野に近いところ、つまり文化室の方が所管していて、非常に文化の本丸の部分から、2つの大きな事業を選んだという事ですが、2年目になるので、この趣旨から言っても、市の行政のあらゆる分野で、文化政策を行き渡らせようという趣旨もあった訳ですから、少し一歩踏み出して、文化芸術の本丸から、少しは、み出したところも考えても良いのではないかという考え方が、1の年度設計のところでした。それから、継続性は、そうはいつでも、その年に終わってしまう単発の事業では、一回きりでアセスメントする意味、将来に向けた意味が低くなってしまいますので、出来れば継続性があるものが良いのではないかというような議論であります。

それから、次のページの3の事業絞込みですが、つまり初年度は大きく2つ、AとBと分けて、もちろん、中のコンポーネントとしては、単発事業4つぐらいは抱えた2つぐらいの事業を選んでいる訳ですが、2年目は、思い切って数を増やすという考え方もありますが、しかし、このメンバーで3つも4つもは、今年やった結果としても、事実上の無理だろうというのもあるので、あまり数を増やさないで、2本か3本に絞った方がいいのではないという議論をしました。

もう1度、1枚目に戻って、進行分野毎の抽出という事で、先ほど2の2で説明頂いたように、文化振興から始って、文化交流、文化と教育・青少年、文化と福祉医療、文化と観光、文化と経済、文化と環境景観という大きな柱立てで、振興計画の整理が行われています。今年21年度は、文化振興から2つ選んだ訳です。A事業の音楽振興文化事業と、B事業に市民文化活動支援事業という大きな柱を2つ選んだのですが、先ほどの22年度で選ぶとすればですが、部会でははっきりした結論までいかなかったのですが、確定した結論ではないのですが、最終的な議論を整理すると、文化の本丸から少しはみ出したところをいれた方が良いという議論から、文化と観光、文化と経済から1本か2本か分かりませんが、選んでみてはどうだろうか。それから、文化と振興が今年選んだ文化芸術政策の本丸部分ですが、しかし、2年目だから、一気に他の所へ打って出るというのもあるけれども、1本ぐらいは本丸の部分、メインストリームのところも残しておいて良いのではないかという議論が部会でも大筋だったと思います。ですから、文化と振興から1本、文化と観光ないしは、文化と経済あたり、音楽や芸術文化による街づくりとか活性化とかというのを事業全体としても川崎市としても大きく政策に掲げていますから、そうするとそれに大きく関連性のあるという、観光とか、経済でありますから、この辺から1本2本選んで頂いたらどうかというものが、決めきった議論ではないのですが、部会の皆さんの大方の意見だったように思いますが。どうですか、部会の方々の補足を頂ければ。

委員 大体、そんな感じです。10月の話ですが、確か、そんな話でした。

議長 別に、押し付ける訳ではないのですが、今日の本会議の参考になればと、部会でそんな議論もあったということ踏まえて、今日新たに議論頂ければと思っています。

委員 10月の時には、出られなかったのですが、文化と観光、文化と経済、このあたりをやって頂けたら、感情としてはいいと思いますが。

議長 という、ご意見を頂きましたが、文化と振興、本丸的なところを残すというのはどうでしょう。いきなり、そちらに移るとするか、外回りに移るという手もあるのですが。今回21年度は2本大きい事業を選びましたが、少し積み残しというか、まだやっていたいというのがあれば、もう1本ぐらい残すというのがありますが。

委員 質問、いいですか。予算の枠というのは、議会で予算を取ってから決まるという事ですか。

議長 予算という意味は、このアセスメントに係る予算ということですか。

委員 ここで選定しますよね、そこに例えば、1千万とか2千万とか、助成出したりする場合に、その予算というのは、枠は決まっているのですか。

事務局 事業予算ということですか。一応、議会で承認を受けて決まります。

議長 22年度ですから、予算としては、今の段階ではまだ決まらないが、ここに載っているものは、大体継続事業だから何がしらの予算は付くという見通しの設定でという

事ですね。

事務局 基本的には、計画に載っている事業については、そのまま総合計画事業でもありますので、その予算はついてくると形になります。ただ、いわゆる事業ですから、色々変更は加える場合もありますが、基本的には、そのまま事業として成り立っていく予算は付いてくると形になります。

委員 議題資料2の1に書いてある、これについては、なにがしらの助成は付いてくるという事ですか。

事務局 基本的には、予算の大小にはかかわらず、付いてくるという事です。

委員 今回、委員長が、いくつか選ぼうと言われるのは、我々が現場に行って、チェックをして、どんなかなど、つぶさにみる対象を絞りましょうという事ですか。

議長 そういう事です。今年度、調査に行って頂いた、コンサート事業や色々な事、あれが市民文化活動事業という大きな括りの事業で、これに相当するものを22年度も選ばなければならないので、今日出来たら、選びましょうという事です。

委員 もう1つ、質問です。この間、新聞に出ていたのですが、東海道の川崎宿の会館を作ろうというのが出てましたよね。あれは、最近にわかに出てきた問題になるので、初期の計画に入っていないから、このあとのには、入らないのですよね。もし、やるとすれば、それは別途、予算をつけてやるという形になるのですか。

事務局 基本的には、進行計画上の事業をアセスにかけてということになっていますので、例えば、今、おしゃったように、新たな事業が、これから予算をつけて、2年間やっていますよというものがあれば、それが文化関係に関するものがあれば、一応進行計画自体が、3年毎の見直しを考えているのです。ですから、3年後に新たな事業が出されてくれば、そこに進行計画上の事業で載ってくる、それがまた、アセスの対象になってくるという形になります。

委員 それは、市民文化室である程度、広報をひろってしまうということで、当事者からの要請とかは。

事務局 そうではなくて、文化室として、各局に、文化関係の事業について、どういうものがあるのか、持っていますかと調査をかけて、そこから挙がってきた事業を網羅していく形になります。ですから、今、おしゃったような事業が、事業ベースとして予算化されてくる形になって、2年間の事業としてやっていくとなれば、それがそのまま、どこの局になって挙がってくるかわかりませんが、事業化されて、アセスの対象になっていきます。

委員 分かりました。

議長 議題資料2の2、網掛けの説明をお願いします。

事務局 10月の部会での議論頂いた事をふまえて、事務局からいくつか候補事業を取り上げてみました。それが議題資料2の3で、こちらが取扱い注意の議題資料2の1を作る元になった各局所管から出されてきた平成20年度の実績について書かれた調書で、こちらに候補事業として8事業を出しています。文化振興分野から2事業、地域文化の街づくり推進事業、アートの街づくり事業。文化と観光分野から3事業、観光振興事業、市政記念花火大会事業、観光産業推進事業。それから、文化と経済分野から3事業、川崎駅周辺市街地活性化と推進事業、地域商業活性化支援事業、バイ川崎キャンペーン事業の8事業を候補として、今回提案をさせて頂きました。実は、この8事

業について、議題資料2の1と2の2で網掛けで示しています。

議長 部会の議論をふまえて、事務局の方で、絞り込んで頂いた提案がこの8事業という事です。別に必ずしもこれにこだわる事はないですが、これを大きな手掛かりにして、参考にして頂いて、それ以外に、こういうのがあるよというのがあれば、お出し頂きたいのですが。

委員 質問です。事務局が例として、選ばれた根拠はなんですか。どういう視点ですか。
事務局 まず、文化振興の部分から言いますと、文化芸術の市民活動、市民の参加、団体等の参加で郷土●35'10 親交を図るという事で、その中の事業として、地域文化の街づくり推進事業、アートな街づくり事業ということで、それらの中から基本計画の中から2つ選ばせて頂きました。次のページ、文化芸術、3のスポーツからは、選んではないのです。とりあえず、2のところ、文化芸術関係の市民団体とか、郷土での文化ベースでの親交という観点から2つ選びました。

もう1つ、議題資料2の2の文化と観光の中の1の基本計画を考えているものなのですが、川崎の産業文化、●文化市で活動し、観光で親交があったとして ●、観光をどういう風に図るかというところから、その中の●シュカントクであります、経済労働局の3つの事業を選ばせて頂きました。

あと1つ、文化と経済につきましては、1番の基本計画の文化のベースを取り入れた商店街を含めた地域活性化というふうな視点のもとで、その中の●主カントクである経済労働局の3つの事業を抽出させてもらいました。

議長 文化振興で、事務局が例に挙げた2つの事業ですが、最初の地域文化街づくり推進という中身は、いわゆる新百合映画祭ですよね。それが、秋に行われるであろう新百合映画祭、あと地名調査事業というのがありますが、これはどちらかという、必須というよりは教育的なビジョン気がしますので、メインはともかく新百合映画祭が対象ですよね。それから、もう1つのアートな街づくり事業というのは、今年2009年では5月に行いました、アルテリッカ新百合2009の一連のものが、2010もあるという事です。だから、それを対象にしようという、たぶんそれが具体的な内容だろうと思います。

事務局 10月に開かれた部会の中でも、川崎新百合映画祭についての質問が委員の中からもあったという事です。あと新百合ヶ丘駅前に川崎市アートセンターがあるのですが、そこで事業を行っているアルテリッカを加味した上で、一応抽出させて頂きました。

議長 仮に、アートな街づくりを選ぶと、新年度入ってすぐの4月、5月に見ないと終わってしまう訳ですね。そういう問題があるということですね。
どうでしょうか、文化振興から、絞込みのご意見を頂ければ、ありがたいですが。事務局の出した2つの内から選んで頂くのも1つですし、それ以外からも勿論、こういう候補があるというご意見があれば、出して頂きたいのですが。
とりあえず、仮置きで、文化振興から1つ、選んでみませんか。

委員 事務局に確認と質問です。今回、文化振興の中から選ぶ2つというのは、両方とも実行委員会方式ですね。つまり、市が、全く単独の主体でやるわけではなくて、民間の方というか、一般の市民の方、あるいは専門家の方の実行委員会方式でやるという事で、それが今回、新年度で選定する分野では、今年やった事とは、違う側面が出て

きて、それが、この審議会がどういう働きかけがする事ができるかというそれも1つのチャレンジになるんだと、部会では少し話題になったかと思うのですが、この2つでいった場合、市の関係の度合いというか、お金はそれぞれ出している訳ですが、その関与の度合いみたいな事で、なにかこっちの方がこうだよという事がありますか。

事務局 まず、地域文化の街づくり、新百合映画祭につきましては、実行委員会が作られて、市から負担金が出して頂きますが、基本的には実行委員会の中でやっていくので、市としての関与は若干薄いのかなと思います。もう1つのアートな街づくり事業に関しては、昨年度からやられているものでありますで、一応実行委員会の中に事務局、文化室にあって、色々調整しながらやっていく。これにつきましては、川崎市の文化財団が、主に補助金を出して、それでやっているという形です。

委員 回数ですが、新百合はもう伝統ある映画祭で15回目、次やると16回目で、アルテリッカは今度やるもので2回目という事ですね。

委員 質問、いいですか。アートな街づくりは、決算額1,500万円となっていますが。
事務局 訂正です。平成20年度決算額は、300万円です。今年度の予算額と入れてしまいました。

委員 今年度は、5倍になるということですか。

事務局 平成21年度です。

議長 平成21年度は1,500万円が予算という事になるのですか。

事務局 説明させていただきます。21年度が初開催だったので、20年度でその準備のための予算として、委託料300万円が付きました。そして、21年度の4月、5月の年度当初で、一応1500万円の予算で21年度は実施したいと思っています。そちらは、まだ、決裁は出ていない状態です。来年、議会にはかって、決裁されて、それを決算として載せるべきでした。

議長 でも、大雑把に1500万円前後というので、間違いはないという事ですね。

事務局 そうですね。来年度の予算に向けて、また、今年度並みというか、今年度同様に事業は出来たということで、これから22年度として計上する予定です。

委員 ●43'35

事務局 それがですね、予算の事なので、この場ではっきり金額を申し上げる訳にはいきませんが、一応地域の実行委員会にお任せする形で、今後とも形式は変わらず、という事です。

委員 委託事業ですか。

事務局 委託ではなくて、現在の文化財団への補助金として、文化財団主催事業とし、文化財団が実行委員会を結成して、地域の芸術祭として行います。

委員 総予算はどのくらい。

事務局 総予算は、昨年実行委員会の決算で、大体4000万円超でした。そして、そのほかに、各実行委員会に加わっているメンバーが、それぞれ主催する事業を入れると、約1億程度ではないかと、●●の方では、発表しております。

委員 市の関与というのは、予算的には、そんなに大きくない。

事務局 そういう意味では、その一部ということになると思います。

委員 新百合映画祭は大体1000万円、市は直接、実行委員会に補助をしている、実行

委員会としての総額は1億を超えるぐらいですか。

事務局 大体、市の補助金の倍ぐらいですね。

委員 そうすると、市の補助金が半分ぐらいの比重をしめると。で、今まで継続してやってきて、今後も基本的にはこの路線でやっていくと。一方、アルテリッカの方は、1億ぐらいの規模の中、1、500万ぐらいが財団を通じて出している、しかも2年目で立ち上がりの段階というこういう事ですね。

議長 ですから、両方とも市の関わり方は間接的なんだが、どちらかというとな映画祭の方が少し距離が近いという感じですかね。アルテリッカの方は、財団経由になるし、事業のウエイトも低いから。

委員 インパクトは大きいという感じですかね。

事務局 市の事業に占める負担割合は、新百合映画祭の方が高いのではないかと想像出来ます。ですが、一方で、市の関わりという意味では、先ほども申したように、アルテリッカ実行委員会事務局へ市の職員が絡んでいる事や、あるいは企画段階から文化財団と市との支援をずっとしているなど、関与という部分では、逆にアルテリッカの方が、現段階では少し大きいのではと思っています。

委員 市の職員の方というのは、リエゾンパーソン、つまり情報を交換するためにの方なのか、それとも専門的なアドバイスも含めて行う、より積極的な役割を担うのか、つまりディビジョンメーカーは誰なのかという所は、どうなのでしょう。

事務局 実際に、実行委員会として、**コースライズ43'03** するはずなのですが、実行委員会のコアーズなんですけど、企画委員の方が居まして実行委員長、副委員長、その中に、一応地元の例えば中学校の**47'20** ですか、事業者の方々ですか、映画学校の方、あるいは芸術関連の団体の方、それと文化財団の方といった●

47'35 その中に、例えば市の判断が、演目とかに対して入る余地があるかという、ないのかも知れませんが、全体の運営の仕組み作りは、まだ立ち上がったばかりなので、広報宣伝の手法とか、チケット販売の仕組みとか、基本的な事務局を支える枠組みについては、市がかなり出来るような状況になっています。

議長 問題は、文化アセスメントでどちらの事業を選んでもいいのですが、例えば皆さんがその事業をみて、ここを改善したらいいのではないかと、という議論をした時に、それがどこまで、相手方に影響力を行使できるのかという点もありますよね。言っても何も影響力が行使できない事業だったら、選ぶ事自体の意味が非常に少ないし、そういう意味で、文化アセスメントの意見提案をした時に、いずれにしても間接的ですが、より有効性、相手方にインパクトが強くてそうだというのは、今の話では、アルテリッカですかね。

事務局 その意味では、市としても、アルテリッカ新百合が、新しい仕組みの中で始まっているので、これまでにない形で、地域の主催団体の方達と関わっていく、あるいは文化団体と関わっているという仕組み自体がまだです。

議長 まだ、固まっていないので、意見をいえば、変わる可能性もある。

事務局 そういった意味で、ご意見を頂ければと思っています。今後更に固めていく上で、非常に参考にさせて頂けると思います。

委員 去年、行ったのですが、実は最前に行っている**49'59** **バージンソウ社**がやったものなので、ただ、私は川崎南部に住んでいるのですが、南部に住んでいる人間とし

ては、窓口が全部北部なんです。チケット販売するので、はっきり言わせてもらえば、ほとんどのものが、北部中心だという感じを、すごく受けました。昭和大学ユリホール、とっても良い所ですが、多分やっていう方々が、みんな知っている北部の中学校の校長とかが関わっているでしょうし、川崎の南部にいる人間としては、ちょっとね、と行きづらいつ感じました。

議長 それは、改善で、例えば、もっと窓口をつけるとかの、意見は出し得ますよね。

委員 そうですね、例えば、ミュージアムでチケットを委託販売する事も、出来るのではないかと、その時、思いました。ただ、内容的にはすごく良かったです。

事務局 参考になるご意見です。実は、来場者アンケートを取ったところ、小田急の新百合ヶ丘が会場なので、かなり県西部など広い範囲からいらしています。しかし、南武線を使った南部方面のお客様はあまり多くなかったようです。その辺を、強化していきたいと考えています。成長途上の事業なので、色々のご意見を頂けるのは、私どもにとっても有難いです。

議長 期間中、南部からバスを出すとか、やり方は色々有ると思いますが。

他に、この2つについて、ご意見はありますか。

委員 映画の方は、だいぶ経っていますよね。私は、芸術な街づくりの委員を、10年以上前から携わっていて、今度新しく新百合ヶ丘でアルテリッカなどがあるので、一応解散して、新たに運営委員会ができて、こちらの方たちが主になって進めているんですね。ですから、最初に芸術な街づくりで、映画や音楽や色々、アートセンターが出来るためのデモンストレーションで、毎回そこで、音楽会をしたり、映画祭をしたり、みんな一生懸命やっていたのです。ですから、あれが長くなってきてるから、逆に言えば、あちらを初めてご覧になったり、何をしているのだとか、去年のものと、集まっている人達もまだ1回やっただけで、今年またやるわけだから、1年やったところで、色々言うよりも、3年ぐらい経ったほうが良いのではないのでしょうか。映画の方は、もう10年経っていますからね。やはり、映画学校が主体なんですよ。素人には分かりませんでしたから。ボランティアの育て方も上手でしたし。その力を借りて、定着したのです。2年続けて、NHKが取り上げたり、広報的な事もやっていましたし。ただ、自分たちの中で、色々やっていますから、逆にこういうグループの方たちが、冷静な全然違う観点から見たときの意見の方が、向こうもこういう意見もあるんだと出てくるかもしれない。ただ、去年立ち上がったところに、あまり言うのもどうかと思います。

議長 映画祭の方を選ぶというご意見でいいのですか。

委員 今、考えてみれば、そうですね。あちらの方が長いですから。でも、1つの殻に入って、でもなかなか積極的に色々なことをやろうとしていますからね。去年立ち上がったところに、急に色々言っても、実行委員会の方たちも、あまりいい気はしないのではないかと思います。

事務局 私の方も、ついアルテリッカの紹介が長くなって、すいません。そういう意味ではこれからなので、急いで今年やらなくてもいいですね。映画祭ももう16回目という事で、なんらかの外からのアドバイスも貴重だと思いますので、その辺は、先生方の間で考えて頂きたいです。

議長 両方考え方が有るという事ですね。鉄は熱い内に打てというなら、今年ですし、ち

よっと古くというか、マンネリ化しているものには、この段階で言った方がいいのではないかと、両方考え方があると思うのですが。

委員　やはり3年ぐらいは、自由にやる事も必要かとも思います。

委員　要するに、去年最初なので、本格的には今年からなので、それをいきなりやるよりは、3年ぐらいいたほうが良いですね。

議長　では、やはり映画祭派でよろしいですか。

委員　あと、予算的に、どんなに補助金を出しているだけと言えども、新百合映画祭は市の補助がなければ、半分になる訳ですから。という事は、市の補助がなければ、出来ないという事ですからね。市が何か言ってきた事に対して、無視する事は出来ないと思うのです。で、もう1つの方は、4分の1ぐらいですよ。これからどうなるか分かりませんが、金を出して、口は出さないと芸術にとっては理想的ですが、こうなったら、予算が難しいとなったら、聞く耳を持つと思いますね。そういう意味でもインパクトもこちらの方があると思いますね。

議長　映画派のお二人の意見を伺いましたが、ほかのご意見はありますか。

委員　ちょっと補足しますと、やはり映画の方は、あらを見つけるというのではなくて、これは結構やっているんだというのを評価するという事も大きいと思うのです。子供達を1週間ぐらい校庭で映画を撮ったりとかやっていますから。とにかく、若い人を育てることに力を入れています。それは、私が言うよりも、皆さんがいらして、対象として選んでやられるというのは、どうかと思っています。

事務局　若干補足をします。新百合映画祭、地域文化の街づくりということで、新百合駅周辺を中心として、文化資源を有効に活用するという事で、アートセンター、ワーナーマイカルシティ、民間ですが、あと日本映画学校と提携しながら、その期間映画の街という事でやっています。アルテリッカにつきましては、事業名がアートの街づくりという事で、基本的には、新百合周辺を中心に今やっていますが、その周辺には映画館があるし、映像施設もあるし、音楽大学もある。総合的な文化資源を有効に活用するという事で、そこを起爆剤にしながら、全市的なアートの街づくりをできればと云う事で、基本的には、地域性にとらわれないなかで、色々進めていくという考え方もあるという事です。ですから、事業名の中では、アートの街づくり事業はアルテリッカというのは、1つの芸術イベントを起爆剤にしながら、やるという、それが新百合映画祭のように何十回も続いていく可能性は、今のところ、分からない形になります。ただ、新百合映画祭に関しては、ある程度定着していますので、麻生区役所、区の方もそれに習った形で、市民子ども版映画上映会などもやりますので、地域性としては、あるのかなと思っています。

委員　先ほど、おしゃったように、南と北は、本当に違うのです。59'37な街づくり委員会が立ち上がったのが、十数年前で、最初から出ていたのですが、その時も、新百合が中心になってしまう。この会議は、川崎市全体を含めるのですかと、いつも質問するのです。私は真ん中あたりの高津区にありますが、どうしても真ん中がちょっと入るぐらいで、南の方は、お呼びじゃない感じで、それで良いのかといつも思っていたのです。でも、それは、それで地域性で、新百合は小田急線なのでその沿線の人は来ますから、それでいいのかなと思っていましたが、だけど、おしゃられたような感情を抱かれるのは、いけないですよ。券を売るのにもあっちの方で扱うとか。

議長 映画祭も北のイベントって感じでしょうか。南部地域の方は、馴染みが薄いという感じですか。

委員 全然ないです。

議長 両方とも新百合が舞台だから、どうしても地域性が出てしまうのですね。

委員 それは、それで良いとも思うのですが、ただ、あまりお金を入れるとなると、南部の方でも、こっちでもやっているのになってしまわないかなと思いますが、難しい問題ですね。

議長 その辺が、大きな課題なのでしょうね。

事務局 アルテリッカは、地域性になっていますが、基本的には、文化資産を有効に生かす事をし、1つのモデルにしなから、全市的にやれるものがないかという事なのです。ですから、実験的な部分もあるので、演劇から何から何まで入れてやってみるという形でやっています。

委員 最終的にアルテリッカでやっている物を、この地区だけではなくて、巡回するような形にするのですか。

事務局 そうです。ただ、そこまでは決まっています。要するにモデル的にやっている物をアルテリッカでやって、アートの街づくり事業としてのアルテリッカではない。その手段として、今やっていて、実験的にやっているという事です。

委員 この2つでどちらかをというのであれば、アルテリッカの方が良いと思います。理由は、今、このケースをモデルとして、川崎の中で、例えば横展開する事を、市としても考えるという事であれば、良いかと思う。映画祭については、私は1度も行った事はありません。これも、先ほど言われたように、南部側において、新百合というのが、川崎市だと、まず知らなかったですから。ただ、新百合の映画祭が著名で、周りから見れば、うまくいって、おそらく、新百合地区に居られる多数のボランティアの方が頑張られていると思えますから、それはそれで頑張ってもらえば良いのではないかと考えています。

委員 そういう意味では、1つの川崎の文化として、特にアートを主としたアルテリッカをアセスに入れるべきだと思いますが、新百合映画祭も主体となっている映画学校が、今度4年制の大学に変わるという中で、アセスが逆にお手伝い出来ることがあれば、してあげたいという気持ちもあるし。でも、順当でいけば、アルテリッカが良いと思います。

委員 私もどちらでもいいのですし、やれるなら2つやっても良いのですが、どうでしょうか。

議長 もう1つのほうの選びかたにもよるのでしょうか。2つないし、3つという言い方をしていますから。とにかく今年の事業違って、中の構成事業が、物が1つ1つだから、分ければ不可能ではない。

委員 皆さんが、言うように、それぞれに、捨てがたい。

委員 この会議自体も今年で終わる訳ではないので、どちらかを今後完全にやらない訳ではないので、そういう意味では、気楽に考えていいのかなという気がするのですが。どちらかと言えば、新百合は、物が言いにくい感じを持っていて、つまり日本映画学校とボランティアの人達がこれまで培ってきた事であって、私たちの会議が言うべき事というのは、基本的に市に対していうわけですね。だから、僕らは市に委託されて

やっている立場なので、民間の人達がやっている事に、市の権威を借りてどうしろというの、その辺のモラルというか、どこまで民間の方達がやっている事に物が言えるのかというのが、中々難しく、微妙な考えどころだと思います。基本的には、新百合をやるにしても、お金を出していることに対して、市として、どうなのかと、その中で、事業に対しての判断が入ってくると思うのです。だから、私たちがダイレクトに映画学校の人達にどうしろというのは、少し留保しなければいけないたち位置なのかなど。やることは良いのですが、ちょっと考えどころかなど、それで新百合はもう一考え、経験を積んでからでも悪くないのかなという印象です。なので、どちらかと言えば、私はアルテリッカかなと思っています。

委員 基本的に優先順位をどちらにするかという事だと思うのですが。私は制作論なので、この委員会が何をやるのという時に、1つは市民目線で、金額的には、1, 500万というのは、大きいなと思います。ただ、一方で半分助成している映画祭ですから、どちらかといったら、どちらも1, 000万超えていて、半分以上助成していて、ある程度活動が固まっているという意味では、新百合映画祭の方をやった方が良いのではないかという気がしています。もう1つこの委員会はアセスメント、評価という事が入るのですが、1年目、2年目で評価というのも気の毒だと思うのですが、まだ何も固まっていないうちに、いろんな事をいうとなると、たぶんマネージメントに踏み込む話になると思うので、それをこの委員会で1年ぐらいみただけで、そこまで踏み込んだ事は言えないのではないかという気持ちがあるので、むしろ行政の関わりあいという観点に絞り込んで、新百合映画祭を今後どう盛り立てていくか、文化資源としてその価値を高めていくのかという事に焦点化してみていく、それを向こうに提案して、より強く確立する。もう20年になろうとする訳ですから、国に向けてサポートしていくというのも意義があるかなという感じがしています。なので、私は、映画祭派です。

委員 映画祭に関して、最初からずっと毎年やってきたのを見てきて、そして芸術祭の街づくりの委員会もやっていますが、すぐにトップの人が変わるので。というのは、後輩にやらせてあげようという親心でしょうか。最初は、映画学校の校長で、今村昌平さんも会議に来ていましたから。それから、どんどん若い人になってきて、それだけ下の人になっていくと、川崎市が、しかも皆さんがこれだけ考えているなんて、夢にも思っていません。あまり言いたくないのですが、NHKのラジオを聞いたときに、川崎市が応援していると一言も言わなかったのです。要するに芸術の街づくりの一環として、この映画祭をやっているんだという一言がない。私はすぐに、次の委員会の時に映画の人に言ったのです。ラジオ聞きましたが、あれは、川崎市がお金を出して、場所を取ったり、文化室が色々やったりしているのだから、一言言って欲しかったと。また、次にラジオ聞いた時も、言わないのです。あれは、少し意識してもらいたいと思いますね。そんな気持ちもあったので、この辺で少し突っ込んだ方が良いかも知れません。

委員 予算が半分というのは、かなり大きいですので、川崎市と主催のNPO法人との共催ぐらいの形になるべきではないでしょうかね。川崎市民の立場とすれば、それだけお金を出して、全く実行権も何もないのでは、4分の1ぐらいにしても良いぐらい。

事務局 割合については、確認をしています。委託事業には、負担金を出しています。

事務局 1つ訂正です。新百合映画祭の場合、途中から、主催がNPO法人川崎アースで、そちらの方に任せている形です。市の方は、その中に負担金として入れているという事になっているので、映画祭の内容等は、川崎アースというNPO法人に構成から調整までやるという形です。市としては、関わりが以前よりは薄くなっているのが実質です。

委員 それは、例えば川崎市の中に色々な芸術系のNPO法人がある中で、これだけをこんなに、半分も負担するというのは、他の団体から、地域的な問題もありますし、ジャンルの問題もありますし、何か言われた時に、地域の街づくりと言う事で川崎市も主体になってやっているから、これだけ大きなお金が出るのだという議論が必要なのではないか。他のとの比較も必要なのではないでしょうか。

事務局 映画祭については、実際に調査の対象としてみて頂いた時に、例えば、麻生区役所の1‘13’22セイスイシン事業との連携とか、地域全体で支えているところがみて頂けると思います。小学校の校庭を使った野外の●1‘13’39会とか、そういうところに、地域のPTAやボランティアとの関わり合いもありますので、ある意味、お金の換算出来ない地域の区や学校等の関わりがかなりある状況で、そういった物が、果たして、負担金を負担する対象として良いかどうかの議論も勿論あると思いますが、先ほど言われたように、やはり長い歴史の中で、地域が育ててきた映画祭であるのも事実です。もし対象事業として選んで頂いて、みて貰えるなら、その辺もみて頂きたいと思います。

今、あまり細かい数字は言えないのですが、一応市の負担金、全体が1500万円弱の総事業費、総収入というべきでしょうか、このような状況になっています。なので、市の負担金の割合は、半分強という事になります。

委員 1500万の内の1000万と言う事。

事務局 999万です。

委員 半分以上。6割。

事務局 基本的には、NPO法人がやっているの、市の考え方としては、市が直接関わるより、NPO法人に自主的にやって頂いて、最終的には、地域を盛り上げてもらう。あとは、基本的に税金をつぎ込む訳ですから、それを少なく済むようにしながら、収入で運営出来れば、一番理想形です。

委員 ですから、内容に市が関わらないというのは、問題ないのですが、市民のためにどういう活動になっているのかは、チェックをする必要があるのではないかと。それこそが、アセスの1つの目標ではないかと思えます。

委員 他の地域に広げていく事はなく、ずっと新百合でという事ですか。それなら、他の地域の人達が新百合に来るような事が、必要ですね。そうしないと、他の区の人でも税金払っているの、全く関係ない訳ではない。

議長 かなり同数のご意見が出てるという前提で、最終絞り込みたいのですが、先に1歩踏み出た、観光と経済のところ、議論してもらって、あまり良いネタがないようなら、また、2つ戻ると言うやり方もあります。

では、文化と観光、文化と経済を一緒にして議論してもらいたいと思います。例えば、バイ川崎キャンペーン事業は、意図は分かりますが、その中に文化芸術イベントが入っているのですか。

- 委員 バイ川崎キャンペーンは、年に2回、川崎駅前と溝の口駅前の2ヶ所でやっていて、キャンペーンの中で洗足の音楽隊に出てもらったり、色々なミュージシャンやパフォーマンスの方々に出て頂いて、芸術をみてもらう、そんな意味では文化活動という視点で、話が出てきたのではないのでしょうか。
- 委員 花火大会は毎年やるのですか。市政記念日に毎年、6000万ぐらいですか。
- 議長 花火大会は、随分お金かけていますね。それは、市の負担が6000万ですか。
- 事務局 その他に、企業等の協賛金を集めています。
- 委員 総額では、いくらぐらいですか。
- 事務局 億は超えています。
- 委員 東京の世田谷と同時開催で、多摩川の両側からやっているの、楽しみもあるのですが。
- 事務局 花火大会は、打ち上げ費用というよりも周辺の警備に金額がかかります。相当、人も出ますから。
- 議長 広げると、かなりエンターテイメント的になりますね。花火大会も伝統的な市民文化の創造と言われると、難しいですね。
- 事務局 花火大会だけではなくて、パンフレットもありますが、その前にセレモニーやアトラクションもあります。
- 議長 観光経済から、これは良いと思うご意見があれば、お願いします。
- 委員 お金の使い方と言えば、花火大会ですが、難しいですね。華やかな分、お金も掛かりますし、市民だけではないし、視点もばらけてしまうので、私は、触らない方が良いかと思えます。
- 議長 観光や経済は、絞り込むのは、意外と難しいですね。
- 委員 花火は良いのではないか。効果大というだけで、十分だし。
- 議長 そういうご指摘もありますが、他に候補になりそうなもの、ありますか。
- 委員 産業観光で、市内の企業を検証して、実際に企業ツアーリズムというものもありますし、一方企業観光の検定試験を商工会議所が主体になってやるようにして、それも3回目を迎える状況で、そういう意味では、川崎の産業観光そのものが全国展開してきているかなと思っています。
- 議長 工場周りみたいなものですか。
- 委員 工場と色々な施設、岡本太郎美術館等も入っています。
- 事務局 参考資料の3に、今回候補事業として入れたものに、イベントもののパンフレットを出しているのですが、右下の数字6番が今おしゃった事業になりますので、参考にして頂けたらと思います。
- 委員 以前、船で廻っているのを、見たことがあります。夜景のも流行っていますね。独特な綺麗さがありますから。
- 委員 検定は上級に受かると、何か役割というか、仕事ができるのですか。
- 委員 まず1点が、優先的に企業視察が出来る所と、もう1つ、産業観光のガイドを育成して、その登竜門になります。
- 委員 ガイドの道が開けますね。受かった100名というのは、人数的には多くないのですか。
- 委員 そうです。去年は初級、上級ともに試験が厳しすぎて、合格率も下がってしまいま

したが、今年は少しゆるくなるのではないかと思います。

議長 市の活性化の上では、面白いし、重要な事項だと思いますが、先ほどの参考資料で、アセスメントの選定条件が7つあって、市の文化芸術を振興する上で重要な事、時代に即した、これはいいですね。市民にとって関心が高い事業、文化的施策について中心的な事業、今後の文化的施策の展開を考える上で必要な事業、他の自治体と1‘26’04 この辺の視点から見てどうかという事ですが。

委員 一方で音楽の街と言ひ、最近では映画の街と言ひ始めましたよね。工業が、この頃はだいぶ薄れましたが、公害のイメージがありました。工業の街で良いんじゃないですか。

委員 そういう意味では、川崎の工業そのものをPRするのは、産業観光、もう1つの切り口として公害を克服した川崎の街は環境技術の街であるという切り口でやっていくとか。

議長 勿論、その視点も大事だと思います。我々としても広い意味での産業観光という事で、そういう事のお手伝いをしようと視点ですから、何か取り掛かりとして、少なくとも、文化性、芸術性がないと、皆さん、共通のベースとして感じられないと土俵が違うと思われるので、その中で、関連性の強いものが、なにかあれば。

委員 質問です。次のページのパスカープロジェクトの説明をお願いします。予算は、50万と少ないですね。

事務局 川崎駅周辺市街地活性化推進等事業の中でパスカープロジェクト、路上演奏者が商店街などで演奏して人を集めると回遊性の促進と言うことを目的としていて、市が主催の事業ではありません。産業振興財団に、商店街の活性化をしてもらえるよう委託をしている中身の1つとして、財団が実施をしているものという事です。実際は、各商店街が自立をして実施していると聞いています。

委員 私たちは、「いいじゃん、かわさき」と呼んでいます。

議長 「つなごう、かわさき」とは、何ですか。

事務局 参考資料3の8のチラシがありますが、市が補助金で支援しているもので、市役所の駐車場でやっているイベントで、ステージで音楽をやられたり、ブースでイベントを行っているものです。

川崎駅周辺の活性化となっていますので、商店街の連合会がそれぞれやるという催しです。

議長 アマチュアや学生がステージでやるという事ですか。

事務局 一応、川崎出身のアーティストを中心です。

委員 50万しかないの、プロが出て、ノーギャラなので、出ないと思う。

委員 でも、お客さんも結構来ていて、勿体ないです。内容的には良いが、文化の視点では難しいですね。

事務局 7ページの地域商業（生活コア商業活性化）支援事業も、イベント事業で、全市的にやっているもので、各地の商店街で行われるイベントに対する補助金という形のもののなのですが、商店街によって、音楽を使ったミニコンサートをやっているところもありますし、人が集まるようにと抽選会等をメインにやっているところもあうようです。

委員 文化イベントですか。

事務局 一応、文化を活用した商店街活性化ということで、音楽や踊りを使っているものもあります。

正直、経済分野事業の本来の目的は、経済の活性化で、ただそれに文化をいかに活用していくかという事で、たぶん文化のコア事業だけでなく、そういったところにも目を向けて頂くと言う事は、今回のアセスメントの分野の広がりという意味で、この間の部会の中でも、少し話があったと思います。

議長 もう少し、文化やアートを全面に出して、観光や商店街に取り組んでもらえるような意識があれば良いのですが、この事業が何となくついでにという気がします。まだ、その辺の意識が弱いかも知れません。そろそろ、絞り込みたいと思います。

委員 今日、決めないとまずいですよね。

議長 私の方からですが、今年は1歩踏み出したい気持ちはあるのですが、今頂いた資料だけでは、絞り込むのは難しいですね。出来れば、観光や経済に踏み出したい気持ちはあるのですが、先ほどのアセスメントの要件にぴったり合うものが、中々ないので、とりあえず、先ほどのしんゆりのプロジェクトは観光的な意味合いも持っているし、21年度は市の行政の直接的事業だけをやりましたが、別の主体がやっている事業という事であれば、肌合いも違いますし、経済や観光への影響も広い事業である事は間違いないので、いきなりよその域に飛び出す準備も出来ていないので、22年度は、本丸から外へ出るという意味合いも込めて、しんゆりの2つの事業、基本的には大きな枠は1本ずつですから、それでやってみて、行政ではない主体でやっている事業はなかなか難しいだろうと思うのですが、その辺の訓練と経験を22年度して、それから、経済や観光の事業は、ほとんどが行政ではない事業ですから、訓練期間として経験をするという事で、今年はしんゆりの2本の考え方で、どうでしょうか。

委員 その意味では、来年末ぐらいに川崎駅東口の整備も終わっていて、例の東海道川崎宿のミュージアムもだいぶ進捗が図られ、それに従って、今駅前のイベントはなるべく同時開催になるように束ねている最中。その辺もあって、文化の切り口と言えるには、まだ1～2年早いのかなと感じるので、議長のおしゃったものでいいのではないかと思います。

議長 22年度は、形としては、文化振興ですが、行政の直接事業から、間接的事业へ踏み出すと、こういう事で、新しいアセスメントの領域に入るという事で、この2事業でよろしいですか。では、今日の結論としては、そういう方向で。事務局には、具体的な検討をお願いしたいと思います。スケジュールの問題やグループ構成の考え方とか。1度事務局に戻します。

委員 議題資料2の2で、こういう切り口で金額が入っているような資料は市民に公開されているのですか。

事務局 議会で承認された決算という形では出るのですが、個別の事業がいくらかは出ていないです。例えば、どこの取り分がいくらかは、出ていないです。

委員 文化を切り口にした形で。

事務局 こういう分類をされた事業の一覧に金額が入ったものはないです。

委員 というのは、ある面でびっくりしたんです。私は川崎市の予算をほとんど目にした事がないのですが、そこに記載されている品目、こういうものに税金が使われていましてとか、収支報告書がこうですとかで見る印象と、この文化という切り口でみる印

象って全然違うのですね。商工会議所の人には悪いのですが、溝の口のバイ運動を見ますが、あそこにも市から税金が出ていたのかと思うと、少しびっくりします。商店街に補助金が出ているのは、私自身も町内会にいますので分かりますが、そのときは、あくまでも自分の商店街を活性化しようとしていたので、文化を意識せずにやってきました。自分が払ってきた税金が補助金として戻ってきたのかぐらいの意識でしたが、文化という切り口でこのように見せられると、ほうとは思いますね。そうなんですかと思ってしまいますね。だから、なんだという訳ではありませんが。

議長 現実文化振興計画には、金額は入っていないのですか。

事務局 入っていません。

議長 そうなると、言われたように直接的な資料としては、まだ外に出ていないという事ですね。

委員 確かに、文化という切り口で、この予算を見るとね。

委員 今風の事業仕分けしろと言われたら、う〜んと思ってしまうですよ。だから、良かったと思っているのですよ。

議長 そういう意味合いも込めて、文化アセスメントに臨んで頂けたら良いと思いますよ。こういうお金の使い方は無駄だろうというのも、勿論、議論ですから。ありがとうございました。

それでは、残り時間も少ないので、今後の議題の3に移りたいと思います。今後のスケジュールについて、説明をお願いします。

< 事務局 説明 >

議長 今回の説明を整理すると、Aグループは3月に1度最終的なアセスの参加があって、Bグループは2月後半にまだ残っていますので、この両方が終わってから、各々のグループごとに会合を持って頂いて、そこで最終的な事務局のデータや本人が見られた感じの物を整理してもらって、要するにグループのメンバーでベーシックなところは共用して頂く。そこで事務局の方から、まとめのための、色々なデータを出してもらい、みなさんとも話し合いを持ってもらうという事だと思います。その上で、8月の公表に向けて、4月以降の新年度に、この様なスケジュールで取りまとめをするという感じですね。その間に22年度の事業について、例えば、アートの街づくりであれば、4月の後半ぐらいから入ってくると思いますので、それもグループ化して参加していくという感じだろうと思います。ご質問、ありますか。

委員 要望ですが、先程の議論で、経済、観光の部分については、今年は見送りという事ですが、私はどちらかというところ意識を持った方が良いんだろうという気はしています。確かに、リストをみても、どういう報告書になるのか、おちが見えないと感じがあって、今年見送るのは、同意なのですが、ただ、この文化アセスメントの候補に挙げた事業の日程が近づいたらアナウンスをしてもらって、時間があつたら、余裕のある範囲でみて、こういう事を、どういうふうに来るのかを、考えてみればという気がするので、そういうアナウンスを電話か何かで流してもらいたいと思います。

事務局 今回の文化と観光、経済分野から提案した事業について、事業の時期が近づきま

したら、皆さんにご連絡します。

委員 将来的には、民望を伸ばす事が出来たら良いなと思っています。ただ、どういう方向に行くか、分からない。

議長 部分的には、文化的事業も、良い事業が入っていると思います。ただ、こう書かれると、何となく文化のぶの字も感じられないようなものを感じられてしまうけれど、中身は良い事業が入っていると思います。

委員 見てきて、やはりこれは無理だと思うかもしれませんが。

議長 その辺のファイリングをやるのも、我々の課題にして、来年度以降取り上げるという事でどうでしょう。

委員 先程、北に偏るとありましたが、そういう意味では、しんゆりばかりで、別の事も意識していますよと、やったらどうかと思います。

議長 その辺のご意見も踏まえてやっていきたいと思います。他の、ご意見はありますか。

委員 私は、Aグループなのですが、最終イベントが3月のコンサートで、そこから動くのは、難しい事です。具体的には、すでにこの間、1‘51’30ありましたけれども、それに関して何かメモとか、こういうデータが欲しいとかを事務局にお願いして、最終的なイベントが終わった時点で集まる、こういう事になるのでしょうか。去年も見た人もいるのではないのでしょうか。そうすると、記憶が薄れてしまうのではないかと思います。

事務局 例えば、こちらで記録として、写真などがありますので、それをもう一度見てく機会を設けられればいいのかと思います。

委員 グループごとに作るものは、委員会にはかる前段階ですね。そうすると、事務局から出てきた調査に加えるまでの案を作るという事ですね。そうすると、一気にそこにはいけないので、簡単な感想とか疑問とかと用意頂いて、一回集めて、共有した上で、ディスカッションしていくのですね。

議長 全員に公表資料を送ったらどうですか。個人で書いてみないと分からないので、それで、グループ会議に臨んだらどうでしょう。

委員 うちのグループは沢山事業があったので、はっきりいって、ほとんどの事業を見ていないのです。私も見たのは1つか2つで、他の先生がご覧になった分はどうなのかを知らないと思わないと思うので、事務局の方から、先生方に行った所の資料を送って頂くと同時に、コメントを頂いて、集まったところで会合を持つと。メールで頻繁に連絡を取る事になりますが、それを事務局でやって頂いて良いですか。

事務局 そういう形で資料を送って、先生方からもらって、それで流すようにします。

委員 実は、私はもうレポートを書いて、事務局に送りました。

委員 いいですか。Bグループの川崎市美術展があって、会期が3週間ぐらいあって、これをみると、27日の表彰式に来るように書いてあるのですが、表彰式は人が集まりますし、全員が表彰式に行くというのはどうかと。別の日が良いのではないですか。

事務局 ご相談しようと思っていたのですが、表彰式は入賞者のイベントになるので、通常は作品展をやっていますので、その時に来て頂いた方が良いのではともおもっています。

委員 表彰式も同じ場所でやっているのですか。

事務局 同じ場所です。作品展は9時半からやっています。表彰式は1時からです。

委員 同じ日に見られるが、通常より人が多いですね。賞をもらう人も、審査員さんも来て、講評する。

委員 出来れば、2回見た方が良いでしょうか。

事務局 事務局としては、表彰式も見て頂きたいです。その間に作品を見て頂く。委員が4人おられるので、その中で割り振りをして頂ければ、こんな雰囲気だったという事も、見えるのかなと思っています。

議長 具体的なやり方については、A・Bグループと事務局で段取りを話し合ってもらって、皆さんに伝えて頂くという事で良いですか。

今日は、難しいディスカッションになりましたが、22年度の方角も出たようです。あと、21年度のアセスメントの評価のまとめが、当面の大きな仕事になりますので、ご苦勞おかけしますが、取りまとめ頂いて、皆さんもご意見をお聞かせください。では、今日の会議は終わりにします。ありがとうございました。